

令和 7 年 10 月

藤 沢 市 農 業 委 員 会 総 会

日時：令和 7 年 10 月 27 日（月）

午後 2 時 31 分～午後 3 時 42 分

場所：本庁舎 5 階 5－1 会議室・5－2 会議室

藤 沢 市 農 業 委 員 会

藤 沢 市 農 業 委 員 会 総 会 会 議 録

藤沢市農業委員会総会を令和 7 年 1 0 月 2 5 日（月）本庁舎 5 階 5－1 会議室・5－2 会議室に招集する。

出席委員は、次のとおり

3 番	永 野 良 徳	1 9 番	宮 治 政 彦
4 番	田 代 恵美子	2 0 番	安 藤 康 彦
5 番	西 山 弘 行	2 1 番	佐 藤 智 哉
6 番	関 根 栄 一	2 2 番	澤 野 孝 行
7 番	齋 藤 義 治	2 3 番	平 川 勝 昌
8 番	井 上 哲 夫	2 4 番	神 崎 享 子
9 番	上 田 洋 子	2 5 番	砂 川 耕 介
1 0 番	吉 川 誠		
1 2 番	三 上 健 一		
1 3 番	吉 原 豊		
1 5 番	伊 澤 忠 治		
1 6 番	井 出 茂 康		
1 7 番	漆 原 豊 彦		

欠席委員は、次のとおり

1 番	落 合 喜 治	2 番	小 林 正 幸
1 1 番	飯 田 芳 一	1 4 番	加 藤 登
1 8 番	北 村 利 夫		

農業委員会事務局職員の出席は、次のとおり

事務局長	山 本	主 幹	坂 間	上級主査	松 森
主 査	久 保				

委員会の日程は、次のとおり

- 日程第 1 議案第 38号 農地法第3条の規定による許可申請について
- 日程第 2 議案第 39号 農地法第4条の規定による許可申請について
- 日程第 3 議案第 40号 農地法第5条の規定による許可申請について
- 日程第 4 議案第 41号 都市農地の貸借の円滑化に関する法律に基づく事業計画の変更について
- 日程第 5 議案第 42号 相続税の納税猶予に関する適格者証明願について
- 日程第 6 議案第 43号 農地中間管理事業に係る農用地利用集積等促進計画案について
- 日程第 7 議案第 44号 農地中間管理事業に係る農用地利用集積等促進計画案に対する意見について
- 日程第 8 報告第 19号 藤沢市農業委員会規程第9条第2項に基づく報告について

開会 午後２時３１分

事務局（山本事務局長） 皆様、お待たせをいたしました。定刻になりましたので、ただいまから「藤沢市農業委員会総会」を開催したいと思います。

それでは、本日の委員の出席状況を申し上げます。委員の総数２５名に対し、出席者数２０名でございます。現在、安藤委員が、まだお見えになっておりませんが、後ほどいらっしゃるということですので、このまま進めさせていただきます。

それでは、初めに齋藤会長から御挨拶をお願いします。

会長（齋藤義治委員） 皆さん、こんにちは。委員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中を、総会にお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

このところ、総裁、総理大臣という話が大分話題になっておりまして、先日、日本では初めての女性の総理大臣が誕生いたしました。

最近では、女性のいろいろな方面への進出ということで、いろいろ活躍をされておりますが、それに関しまして、先日、ちょっとした裁判がございまして、皆さん方も多分御存じだと思いますが、職場で親しみを込めて「何々ちゃん」と呼んだら、それがハラスメントだということで訴えた方がいらっしゃいます。大きな会社ですが、そこの事務をやっていた方、４０代の女性の方が、会社の中で「何々ちゃん」とか「可愛いね」とか言われていたら、それで、本人がうつ病になってしまったということで、その上司と会社を訴えました。

訴えまして、会社では和解が成立をしまして、７０万円を支払ったそうです。そして上司の方、それは裁判まで行きまして、判決が下りまして、２２万円の賠償金を払えということで判決が下りました。

このように、女性の進出ということで、いろいろな方面で活躍をされておりますが、その反面、いろいろなことが起こっているということも事実でございます。

皆様方の中には、今後の農業経営の中でも、規模拡大等で女性の方を使うこ

ともあろうかと思いますが、男性、女性にかかわらず「ハラスメント」ということで、今後、ちょっとしたことですぐ訴えるというアメリカ的なことになっていくのではないかなということは事実のようでございます。

そうしたことでも、これからの女性の進出というものは計り知れないのではないかなということも思っております。

また、働き方改革ということも非常に話題になっておりまして、今回の総理大臣も、この働き方改革ということもいろいろ提案をされております。

我々、昭和時代の人間ですから、「怪我と弁当は自分持ち」とか、「24時間働けますか」と、そういう時代を生きてきた者にとっては、今の時代の働き方というものは、ちょっと理解に苦しむところがございますが、これが現実だということでございますので、いろいろ細かく注意をしていただきたいと思いますと思っております。

それでは、10月の総会を開会いたします。よろしく御協力のほどをお願い申し上げます。

事務局（山本事務局長） 会長、ありがとうございました。

これより議事に入りますが、藤沢市農業委員会総会会議規則第5条の規定に基づき、齋藤会長に議長をお願いいたします。

よろしくお願いいたします。

議長（齋藤義治委員） それでは、しばらくの間、議長を務めさせていただきます。

なお、本会議を公開することに御異議はございませんか。

「異議なし」の声多数

議長（齋藤義治委員） 事務局、本日の傍聴人はいらっしゃいますか。

事務局（久保主査） いいえ、いらっしゃいません。

議長（齋藤義治委員） はい。

それでは、これより会議を開きます。

なお、議事録署名人につきましては、議席番号順により、5番の西山弘行委員と、8番の井上哲夫委員の御両名をお願いいたします。

それでは、これより議事に入ります。

日程第１、議案第３８号「農地法第３条の規定による許可申請について」を上程いたします。

事務局からの説明を求めます。

松森上級主査。

事務局（松森上級主査） それでは、「農地法第３条の規定による許可申請について」、御説明をさせていただきます。

地区、御所見・遠藤。番号１。譲受人、住所氏名、記載のとおり。従事者、１人。所有面積、２０ａ。耕作面積、３３８ａ。譲渡人、住所氏名、記載のとおり。当該農地、宮原の１筆。地目、畑。地積、７３３㎡。権利の種類、売買による所有権移転。申請理由、譲受人、農業経営規模拡大のため。譲渡人、譲受人の要望による。

続きまして、番号２。譲受人、住所氏名、記載のとおり。従事者、１人。所有面積、２０ａ。耕作面積、３３８ａ。譲渡人、住所氏名、記載のとおり。当該農地、宮原の３筆。地目、いずれも畑。地積、３筆合計で１，１２６㎡。権利の種類、売買による所有権移転。申請理由、譲受人、農業経営規模拡大のため。譲渡人、譲受人の要望による。

続きまして、番号３。譲受人、住所氏名、記載のとおり。従事者、１人。所有面積、２０ａ。耕作面積、３３８ａ。譲渡人、住所氏名、記載のとおり。当該農地、用田の１筆。地目、畑。地積、２，８３３㎡。権利の種類、売買による所有権移転。申請理由、譲受人、農業経営規模拡大のため。譲渡人、譲受人の要望による。

続きまして、番号４。譲受人、住所氏名、記載のとおり。従事者、１人。所有面積、２０ａ。耕作面積、１７５ａ。譲渡人、住所氏名、記載のとおり。当該農地、用田の１１筆。地目、いずれも畑。地積、１１筆合計で２，７６４㎡。権利の種類、売買による所有権移転。申請理由、譲受人、農業経営規模拡大のため。譲渡人、譲受人の要望による。

番号５。譲受人、住所氏名、記載のとおり。従事者、３人。所有面積、８４ａ。耕作面積、７５ａ。譲渡人、住所氏名、記載のとおり。当該農地、葛原の

2筆。地目、いずれも畑。地積、2筆合計で2,375㎡。権利の種類、売買による所有権移転。申請理由、譲受人、農業経営規模拡大のため。譲渡人、譲受人の要望による。

以上でございます。

議長（齋藤義治委員） 事務局からの説明が終わりました。

それでは、番号1及び番号2について意見を求めます。

10番、吉川委員。

10番（吉川 誠委員） 資料は、1ページをお開きください。

番号1及び2につきましては、市道を挟んで隣り合っている農地が申請地になっています。譲受人が同一であるため、まとめて意見をします。

本件の申請地につきましては、県道藤沢・厚木線にある「用田」の交差点から南西に約500mの土地になります。

地区協におきまして、譲受人と面談をいたしました。

譲受人は、用田などで露地野菜等の生産により農業経営を行っています。

このたび、農業経営効率化を図るため、当該農地を新たに取得することです。

申請地につきましては、トウモロコシやサツマイモを生産する計画です。

地区協の意見といたしましては、農地法第3条第2項各号には該当しないため、許可要件の全てを満たすものと考えております。

以上でございます。

議長（齋藤義治委員） 他に意見はございませんか。

— — — — — — — — — — — — — — — — — —
— — — — — — — — — — — — — — — — — —

議長（齋藤義治委員） ないようでございますので、続きまして、番号3について意見を求めます。

10番、吉川委員。

10番（吉川 誠委員） 資料は、同じく1ページをお開きください。

本件の申請地につきましては、県道藤沢・厚木線にある「用田」の交差点か

議長（齋藤義治委員） ないようでございますので、続きまして、番号5について意見を求めます。

9 番、上田委員。

9 番（上田洋子委員） 資料は、9 ページをお開きください。

申請地は、県道横浜・伊勢原線にある「葛原神社入口」交差点より北西に約350mの土地になります。

地区協におきまして、譲受人と面談をいたしました。

譲渡人は、露地野菜などの生産により農業経営を行っています。

このたび、農業経営規模拡大を図るため、当該農地を新たに所得するのとことです。

申請地は、キャベツやブロッコリーなどを生産する計画です。

地区協の意見としましては、農地法第3条第2項各号には該当しないため、許可要件の全てを満たすものと考えております。

以上です。

議長（齋藤義治委員） 他に意見はございませんか。

井出委員どうぞ。

16 番（井出茂康委員） ちょっと遡るような形で申し訳ないのですが、先日の地区協でもいろいろと話が出た、4 番のところですが、この方は、法人として葛原のほうで、いろいろ借りている形で、また貸している形でいろいろと菜園をやっているらしいやまして、そこの違法駐車とは言えないのですが、車が結構とまっているような状態でありまして、法人で野菜を売っての収入はないという話を、以前にもお聞きしたのですが、要は、周りからのそういう貸し農園的な活動になっているので、法律上は全然問題ない形で、なかなか難しいのはよく分かるのですが、そういうような形で、どんどんいろいろな農地を貸し農園化されていってしまう可能性が非常にあるので、これからはどうなんだろうかねということ、一つ投げかけておきたいだけです。

なぜ今ここで、投げかけさせていただいたかというと、全然違う話ではありますが、今「農福連携」の形の中で、大企業で障がい者を雇用しなければなら

ないため、農業をさせたらどうかというような考え方で農地を借りたい、買うという業者があるんですね。

そういうようなところが、実際のところ、入ってきて、真ん真ん中でそういうような施設を建ててやられてしまうとか、隅のほうでもやっていて、これが「農福連携」のいい例なので、大企業の方、ここにどうぞとかというような話になっていくのがいいのか、というような問題などにもなっていくと思うんですよ。

そこら辺のこともいろいろと踏まえた中で、皆様でそういうところを、自分の頭の中に置いておいていただいて、「農福連携」としてやっていく企業がそこに入ることは、障がい者が働く場所としては非常にいいのかもしれませんが、それを本当の農業として考えると、私は分からない、その部分としては分からないのですが、そういうようなところで障がい者を使っていることが、大企業の中の「農福連携」で障がい者をうまく使っていますよという話になってしまっているのかどうかというところが、これから非常に問題になっていくのではないのかなと。

それが農業の「農福連携」の一つの鏡なんです。いい鏡ですと言われるのであれば、賛成はしますけれども、それが、これから大企業が、ただ金だけ払っていればどうにかなるだろうという世界になってしまったときに、その間に入っている業者は、何をやらせていても農福連携ですから、障がい者ですからしょうがないんですっていう話になってくると、大企業からもらったお金だけで、その事業が成り立って、農家もそこで貸しておくだけでお金が入ってくるので、いいですよ。それがダメだとは言いませんけれども、農家も潤ってきていいのですが、それが農地の使い方としていいのであれば、じゃ農業委員会の農業の考え方っていうのは変えていかなければいけないんじゃないのかなと思うので……、という一点です。

(安藤委員 入室)

議長(齋藤義治委員) ただいま井出委員から、4番に関する質問がございました。

事務局で、前にもちょっと説明をしていただいたのですが、経営形態が分かる

範囲でお願いをいたします。

坂間主幹。

事務局（坂間主幹） 法人化ということで、「農福連携」、結局のところは、代表者が、農園指導という形で行っておりまして、実際に転貸というような形ではなくて、農地は貸さずに演習・指導のもと、利用者が農作業を行う農業体験農園ということで、特段、法律の定めのないやり方をやっているような状況です。

この使い方であれば、考え方としては自主経営という考え方になりますので、中間管理事業として、また、常時従事しているかということも、特段問題ないような形で方式をとられているということです。

先ほど、駐車場の話がありましたけれども、今後、この法人に対して、そのような現場を確認次第、そういったところの指導というものはしていく必要があると考えております。

以上です。

議長（齋藤義治委員） 農地法第3条ですと、要するに農地の取得をすることは、いわゆる農地を取得したら肥培管理をするということは、原理原則ですよ。

井出委員が言われるように、肥培管理をしないで、例えばそれを転貸というふうな形にしていくと、果たして農地法上、どうなのかなということは、これは疑問視されると思いますが、その辺はどうですか。

事務局（坂間主幹） 転貸という形になりますと、やはり法的にも違反しているという状況にはなっていないかと考えております。

先ほど申し上げましたとおり、演習・指導のもとで手伝い、指導して農体験をしている、そういった状況ということであれば、なかなか指導の対象にはなっていないものと考えております。

議長（齋藤義治委員） それにしても、この方は農業での収益はないわけでしょう。

それを、要するに企業から「農福連携」ということで土地を提供しているということで、これは本当に難しい問題だと思いますが、本来ですと、これはちょっと違反ではないかなと、私は思いますけれどもね。

16番（井出茂康委員） 非常にグレーなんですよ。

議長（齋藤義治委員）　そうですね。

16番（井出茂康委員）　法律で追いかけていった上では、多分グレーじゃなくて白でしょうけれども、ただ、それを全部に、これからいろいろなところで、そういう事例が上がってくると思うんです。上がってきたときに、それが全部OKですよというような話になってしまったときに、どうなのかなというところがあるので、まあ別に、個人的に農地を貸しておいて、荒らされるわけでもなく、農業らしいことをちゃんとやっていただいているので、それで、もともとの生産者というか地権者にもお金が入ってくるので、別に文句を言う筋合いはないんじゃないのと言われると、まあそのとおり、ごもっともです。私もお金は欲しいですという世界ですが、じゃ、それが農業の、農地の使い方としてOKですよというような話を、大っぴらにしていんだという話になってしまうと、じゃ、農地を荒らさないのならうちも貸して、大企業の誰が来るか来ないか分からないですが、間に入った人が、そこを借りてやっていくのであれば、そんなにうれしい金儲けはないのかなと、結構なお金をもらえるみたいですし、という感じですね。

議長（齋藤義治委員）　なるほどね、分かりました。

その辺は、ここで結論は出ませんので、私も、機会があるごとには、そういうことは、農業会議でも発言をしておきたいと思いますし、また、事務局でも、これは問題提起ということで、ひとつお願いをしたいと思います。

そのほかに、何かございませんか。

— — — — —
— — — — —

議長（齋藤義治委員）　他にないようでございますので、採決をいたします。

議案第38号について、許可をすることに御異議はございませんか。

「異議なし」の声多数

議長（齋藤義治委員）　それでは、議案第38号について、許可することに決定をいたします。

次に移ります。

日程第２、議案第３９号「農地法第４条の規定による許可申請について」を上程いたします。

事務局の説明を求めます。

松森上級主査。

事務局（松森上級主査） それでは、「農地法第４条の規定による許可申請について」、御説明をさせていただきます。

地区、御所見・遠藤。番号１。申請人、住所氏名、記載のとおり。経営面積 78 a。耕作者、同左人。当該農地、用田の１筆。地目、畑。地積、2,205 m²。内容、転用目的、貸資材置場。農用地区域除外日、平成15年2月24日。農地種別、第３種農地。

続きまして、地区、六会・長後。番号２。申請人、住所氏名、記載のとおり。経営面積 73 a。耕作者、同左人。当該農地、下土棚の１筆。地目、畑。地積、957 m²。内容、転用目的、貸駐車場。農用地区域除外日、昭和59年4月20日。農地種別、第２種農地。

以上でございます。

議長（齋藤義治委員） 事務局の説明が終わりました。

それでは、番号１について意見を求めます。

17番、漆原委員。

17番（漆原豊彦委員） 資料は、12ページをお開きください。

本件の申請地は、県道43号線にある「用田橋際」交差点から、南東に約250mの土地になります。

農地の区分は、前面が建築基準法の道路で、上下水道管が埋設されており、近隣には「海老名市本郷ふれあい公園」と「綾瀬市みはらし広場」があるため、「第３種農地」と判断しました。

土地所有者である申請者は、使用者から申請地の賃借の要望を受け、自ら資材置場を造成し賃貸するものです。

使用者は、横浜市に所在する事業者で、現在、綾瀬市に資材置場を賃借していますが、事業の拡大のため、新たに資材置場を探していたところ、規模的に

0 3 8 m²のうち2, 0 8 3. 5 2 m²。内容、権利の種類、賃借権設定。転用目的、資材置場及び駐車場。農用地区域除外日、平成1 5 年2 月2 4 日。農地種別、第3 種農地。

続きまして、番号3。譲受人、住所氏名、記載のとおり。譲渡人、住所氏名、記載のとおり。耕作者、同左人。当該農地、宮原の1 筆。地目、畑。地積、3, 5 5 9 m²。内容、権利の種類、賃借権設定。転用目的、駐車場。農用地区域除外日、昭和5 9 年4 月2 0 日。農地種別、第2 種農地。

以上でございます。

議長（齋藤義治委員） 事務局の説明が終わりました。

それでは、番号1 について意見を求めます。

1 6 番、井出委員。

1 6 番（井出茂康委員） 資料は、1 6 ページをお開きください。

本件の申請地は、御所見中学校から南東に約3 0 0 mの土地になります。

農地の区分は、前面が建築基準法上の道路であり、水道管及び下水道管が埋設されており、近隣には大上公園と御所見中学校があるため、「第3 種農地」と判断いたしました。

譲受人は、市内で、家屋と内装の解体工事業、塗装業を営んでおります。

このたび、これまで借りていた置場の退去依頼があったことから、代替地を探していたところ、規模的にも都合がよい申請地が適地であると判断したとのことです。

申請地は、東側が道路、西側が畑、南側が畑、北側が駐車場になっております。

出入口以外の部分については、地上高4 3. 5 cmの鋼板を設置し、土砂等の流出を防ぎます。

敷地内は、転圧の上、碎石舗装にして、雨水については、敷地内浸透処理とします。

地区協においては、譲受人の代理人と面談し、周辺に残る農地に影響がないよう十分配慮することなどについて指導しました。

議長（齋藤義治委員） 他に意見はございませんか。

16番、井出委員。

本件の申請地は、御所見中学校から南東に約300mの土地になります。

譲受人は、主に市内で、解体工事業、建設業、中古機械や重機の販売業を営んでおります。

申請地は東側が道路、西側が畑、南側が資材置場、北側が畑になっておりま
す。

敷地内は、転圧の上、碎石舗装にして、雨水については、敷地内浸透処理とします。

以上です。

議長（齋藤義治委員） 他に意見はございませんか。

10番、吉川 誠委員。

(吉川 誠委員) 資料は、20ページをお開きください。

本件の申請地は、御所見市民センターから南西に約400mの土地になります。

農地の区分は、農用地区域外であり、500m以内に御所見市民センターがあるため、「第2種農地」と判断できます。

譲受人は、藤沢市に本社を構え、静岡県焼津市の営業所を拠点として冷凍鮮魚・生鮮品などの輸送業を営んでおりますが、事業規模拡大により、焼津市の拠点のほかに関東一円への輸送拠点の確保が急務となっていることから、東名高速道路や圏央道への接続も良好であるなど、交通の利便性に優れ、また、大型の車両の進入可能な道路幅があり、かつ敷地内での駐車・回転が容易な土地の形状・面積など、規模的にも都合がよい本申請地が適地であると判断したとのことでございます。

申請地は、西、南、北東側が畑、東側は宅地と道路、北側は道路になっております。

出入口を除いた敷地の外周部はコンクリートブロックを2段及び3段積みし、土砂等の流出を防ぎます。

敷地内は転圧の上、外周部より最小幅 1 m、最大幅 2.9 m の範囲を碎石敷きに、それ以外の部分はアスファルト舗装といたします。

雨水については、市下水道計画業務課と協議の上、浸透施設を設置し、敷地内浸透処理とします。

なお、30 cmを超える盛土部分があるため、神奈川県砂防課に盛土規制法の許可申請済みであるとのことでした。

地区協においては、譲受人と面談をし、道水路や周辺に残る農地に影響がな

以上でございます。

議案第40号について、許可をすることに御異議はございませんか。

議長（齋藤義治委員） それでは、議案第４０号について、許可することに決定をいたします。

日程第４、議案第４１号「都市農地の貸借の円滑化に関する法律に基づく事業計画の変更について」を上程いたします。

久保主査。

事務局（久保主査） 本件につきましては、市街化区域における生産緑地に指定された農地を借り受けている者が、都市農地の貸借の円滑化に関する法律第6条第1項の規定に基づき、藤沢市に対し、事業計画書の変更申請があったため、同法第6条第3項の規定に基づき、市長から意見を求められたものです。

番号1は、羽鳥で9 aを耕作する方の更新借受分で、当該地では、ブロッコリー等を栽培していく予定とのこと。

番号2は、大庭と稲荷で149aを耕作する法人の更新借受分で、当該地では、ハウレンソウ等を栽培していく予定とのことです。

なお、現地確認を行い、特段問題はありませんでした。

以上で説明を終わります。

— — — — —
議長（齋藤義治委員）　　ないようでございますので、採決をいたします。

議案第４１号について、承認をすることに御異議はございませんか。

「異議なし」の声多数

それでは、議案第４１号について、承認することに決定をいたします。

次に移ります。

日程第５、議案第４２号「相続税の納税猶予に関する適格者証明願について」
を上程いたします。

事務局の説明を求めます

松森上級主査。

事務局（松森上級主査）　それでは、「相続税の納税猶予に関する適格者証明願につ
いて」、御説明させていただきます。

地区、御所見・遠藤。番号１。被相続人、住所氏名、記載のとおり。相続人、
住所氏名、記載のとおり。特例農地、遠藤の２筆。地目、いずれも畑。地積、
２筆合計２，１１５㎡。区域区分、記載のとおり。相続開始年月日、令和７年
１月２２日。経営面積、２，７１０㎡。現地確認日、令和７年１０月１６日。
以上でございます。

議長（齋藤義治委員）　事務局の説明が終わりました。

それでは、番号１について意見を求めます。

１９番、宮治委員。

１９番（宮治政彦委員）　本件につきましては、令和７年１０月１６日に相続人と事
務局職員及び私で現地確認を行いました。

現地の状況は、ネギの栽培中及び野菜の作付け準備中であり、全て適正に管
理されていました。

以上です。

議長（齋藤義治委員）　他に意見はございませんか。

— — — — —
— — — — —

議長（齋藤義治委員）　ないようでございますので、採決をいたします。

議案第４２号について、承認をすることに御異議はございませんか。

「異議なし」の声多数

議長（齋藤義治委員）　それでは、議案第４２号について、承認することに決定をいたします。

次に移ります。

日程第６、議案第４３号「農地中間管理事業に係る農用地利用集積等促進計画案について」を上程いたします。

事務局からの説明を求めます。

久保主査。

事務局（久保主査）　議案書８ページをお開きください。

番号１、番号５は、用田を中心に５１ａを耕作する法人の農業経営基盤強化促進法に基づく利用権設定から、農地中間管理事業に係る農用地利用集積等促進計画への切り替え分で、当該地では、野菜を栽培していくとのことです。

番号２は、用田を中心に３３８ａを耕作する方の新規借受分で、当該地では、野菜を栽培していくとのことです。

番号３は、打戻を中心に１５３ａを耕作する方の新規借受分で、当該地では、果樹を栽培していくとのことです。

番号４は、遠藤を中心に１０４ａを耕作する方の新規借受分で、当該地では、野菜を栽培していくとのことです。

１つ飛びまして、番号６は、宮原で１３５ａを耕作する方の利用権設定から農地中間管理への切り替え分で、当該地では、植木を栽培していくとのことです。

番号７、番号８は、７月３０日開催の藤沢市青年等就農計画認定審査会で認定され、藤沢市において、新たに農業を開始する方で、資料は２５ページからとなります。

当該地では、ルバーブ等を栽培し経営していくとのことです。御所見・遠藤地区の地区協議会におきまして、本人と面談し、就農計画等について確認して

なお、現地確認を行い、特段問題はございませんでした。

議長（齋藤義治委員） 事務局からの説明が終わりました。

議案第４３号について、承認をすることに御異議はございませんか。

議長（齋藤義治委員） それでは、議案第４３号について、承認することに決定をいたします。

日程第 7、議案第 44 号「農地中間管理事業に係る農用地利用集積等促進計画案に対する意見について」を上程いたします。

(対象委員 退席)

久保主査。

なお、現地確認を行い、特段問題はありませんでした。

議長（齋藤義治委員） 事務局の説明が終わりました。

— — — — —
議長（齋藤義治委員） ないようでございますので、採決をいたします。

議案第４４号、番号４について、承認をすることに御異議はございませんか。

「異議なし」の声多数

議長（齋藤義治委員） それでは、議案第４４号、番号４について、承認をすることに決定いたします。

退席している委員の入室をお願いいたします。

（対象委員 入室）

それでは、本議案番号１から番号３について、事務局の説明を求めます。

久保主査。

事務局（久保主査） 番号１は、打戻で１６９ａを耕作する方の更新借受分です。

番号２は、打戻を中心に１５７ａを耕作する方の更新借受分です。

番号３は、打戻を中心に１５３ａを耕作する方の更新借受分です。

なお、現地確認を行い、特段問題はございませんでした。

以上で説明を終わります。

議長（齋藤義治委員） 事務局の説明が終わりました。

それでは、本件について意見を求めます。

井出委員。

１６番（井出茂康委員） 地権者はどうだったんですか。

議長（齋藤義治委員） 久保主査。

事務局（久保主査） 御所見・遠藤地区の地区協において御質問があった件ですが、議案書１１ページの番号１から番号３の権利の設定をする者についてですけれども、委員から、お亡くなりになっているのではないかという御質問をいただきました。中間管理機構に確認したところ、農業会議でも、その件について把握はしておりました。

今回、議案書にもありますとおり、中間管理権の設定というものは、権利の設定をする者と農地中間管理機構で契約しているものになるのですが、こちら、１０年の契約期間の途中となっておりますので、特段、その権利の設定する者

はお亡くなりになっても、相続人にその権利は継承されるということで、このたび契約書の結び直し等はないとのことでした。

なので、この権利の設定をする者のお名前は、変更は特段していないということになります。

議長（齋藤義治委員） でも、おかしいですよ、亡くなっているんでしょう。

16番（井出茂康委員） そうなんですよ。いや、別に不思議はないんですけども、ただ、それで法律が通るのかなと思って……、相続税上の問題で、要は死んでいるのに貸した形になっていますから、そこら辺がよく分からなくて、ちょっとどうなのかなと思いつつながら。

8番（井上哲夫委員） こういうのは、家族とか、相続した人の名義にならなくていいのかな。

16番（井出茂康委員） 4番だと、相続人代表者の名前になっているじゃないですか。そういう書き方であれば、多分全然問題ないのだと思います。私たちも、ああそうなのねと理解できるのですが、亡くなっている方が、そのまま貸出人になっていていいの、みたいなのが……、それは、途中で亡くなったのだと言われると、ああそうですよね、とは思いますが、ただ……

議長（齋藤義治委員） 久保主査、どうぞ。

事務局（久保主査） 今、議案書の11ページを見てのことですが、重複の説明になりすけれども、番号1から番号3の「中間管理権」というのが10年となっているのに対し、番号4に関しては、中間管理権も貸付け期間も5年となっておりまして、これは、もちろん契約を結ぶ時点で権利の設定をする者が亡くなっている場合は、新たな相続人が決まってからしか契約はできないということですが、番号1から番号3は、あくまでも中間管理機構が10年で借りている最中ということなので、中間管理機構と耕作者の権利設定が5年という更新になっておりますので、特段、変更はないということを確認しております。

議長（齋藤義治委員） これは、結局途中で亡くなってということは、これで契約が更新するということはおかしいですよ。

16番（井出茂康委員） そうなんですよ。

議長（齋藤義治委員） これは農業会議に、もう一回言って、確かに契約としては生きているのだろうけれども、ここの、要するに「権利を設定する者」を替えてもらうか、何かしてもらわないと……

16番（井出茂康委員） 貸している人が、俺貸したよって言って亡くなっているわけですから、今度は、その土地は誰かが相続しているわけですね。

議長（齋藤義治委員） そうです。確実にしているわけですよ。

16番（井出茂康委員） しているはずですよ。しているんだから、今度はその人が、「貸さないよ」と言った時点で賃借権はなくなるというか、破棄されなければいけなくなってくるのだと思うので、その人が「貸すよ」と言っているのであれば、例えば今協議中であって、分けてはいないけれども、みんなで「貸すよ」と言っているのであればいいのしょうけれども、そこら辺が——だから、「契約は更新しません」というのは、言っていることは分かりますが、ただ、土地の相続なんかで引っかかるのではないかなとか、相続する程の土地でもないのしょうけれども、価値的にもね、農地なので、場所もそうですがね。というのがまかり通っていいのかなみたいな……

議長（齋藤義治委員） この方は、結構前に亡くなっていますよね。

3番（永野良徳委員） いや、そうでもないですね。まだ1年たっていないですね。

議長（齋藤義治委員） そうですか。

それでは、もう一回確認してもらって、亡くなっている人と契約しているということは、まずおかしい問題ですからね。

3番（永野良徳委員） ちょっと余談ですけども、私も、それを聞いたのですが、結局、最初に10年で契約をしているんだから、途中で亡くなろうと、これは活きているんだよという……

議長（齋藤義治委員） 契約はね。

3番（永野良徳委員） そういう説明なんですよね、県の説明は。

だから、それでも、普通だったら、相続人代表は誰々じゃないんですかという話は、ちょっとしたんですが、それは今、久保さんが言われるように、県の話は、契約は10年だから、ここで取りあえず見直ししましょうと言っても、

これで契約が活きているという、そういう説明なんですね。

議長（齋藤義治委員） はい。

吉川委員、どうぞ。

10番（吉川 誠委員） 関連の質問になってしまいますけれども、中間管理機構で、例えばお世話になって農地をお貸しする。それは3年ということはありますよね、切り替えが。

3番（永野良徳委員） 3年、5年ね。

10番（吉川 誠委員） その3年というほかに、10年間の契約というのはあるわけですか。

議長（齋藤義治委員） 5年、10年というのはありますね。

10番（吉川 誠委員） 5年、10年ですね。でも、3の倍数の6年という数字には納得できるけれども、なぜ5、10なのっていう……

議長（齋藤義治委員） それは、決まっているアレだから……

10番（吉川 誠委員） 決まりだからということですね。ということは、中間管理機構で、例えば多少の面積でも、ある方に耕作してもらっているという契約において、じゃ、私の契約は10年ですか、5年ですかということを、個々に改めて確認する必要があるということですね。

議長（齋藤義治委員） 契約時にそれは、最初に契約期間は決まりますから。

10番（吉川 誠委員） なるほどね。それで、決まったものがはっきり分からないということは、尋ねたほうがいいということですね。

議長（齋藤義治委員） そうですね。

10番（吉川 誠委員） 分かりました。ありがとうございます。

議長（齋藤義治委員） 今回は10年の契約で、10年の途中で亡くなっているわけですね。ですから、これは多分遺産分割協議書ができているはずだから、そうなってくると、要するに地権者は、この方ではないわけですからね。

16番（井出茂康委員） だから、ここに出てくる時点で、本当なら地権者はこの人ではないわけだから、出てこないのならいいんですよ。その中だけで勝手にやってくれているのならいいのですが、ここに公的文書として出てくる時点で、

いない人が貸していますよというのがOKなのかというだけの問題で、何もこの問題に茶々を入れているわけではなくて……

10番（吉川 誠委員） 本当にこれに茶々を入れているわけではなくて、例えば本当の親族なり何なりが引き継いでいてくれた場合には、事も前に進むだろうなという感覚が裏で持てますけれども、そうじゃない場合においては、もっとひどい結果になるだろうと。

だから、そういうことに対する心配事だと思うんですよ。

16番（井出茂康委員） ここで更新しているのに、何で替わっていないのかなというだけで……。

10番（吉川 誠委員） そうですね。それは、真摯に確認をしていただいたほうが間違いないかろうと思います。

3番（永野良徳委員） でも、まだ相続は確定していないはずですよ。

議長（齋藤義治委員） それでは、これは、もう一度農業会議に確認をしていただいて、契約者が亡くなっていれば、その時点で終了ということが、本来の契約ですから、ここで、また死んだ人の名前が書いてあるということは、ちょっと違和感があるということで、それは言っておいてください。

事務局（久保主査） はい。

議長（齋藤義治委員） そのほかに、何かございませんか。

佐藤委員、どうそ。

21番（佐藤智哉委員） 事務局にちょっと伝えたいのですが、今回、更新の手続きがあつて、最初は、事務局から更新の書類が……、要は、中間管理機構でもともと結んでいた契約ですけれども、それが分かっていなかったみたいで、今回、書類を送られて、それで提出をしました。そうしたら、いや、実は中間管理機構との契約だったから、またつくってくれという話になったんです。

その辺、中間管理機構と農業委員会事務局で、もう少し連携をとってもらわないと、こっちは二度手間になったので、その辺、もう少し連携をしてもらいたいなという要望です。

議長（齋藤義治委員） その辺はどうですか。いわゆる利用権だったんでしょう、も

とは。

21番（佐藤智哉委員） そうではなくて、もともと中間管理機構だったんです。

議長（齋藤義治委員） 中間管理機構、その手続きの問題……。

それでは、久保主査。

事務局（久保主査）　それが、手続ということで……

21番（佐藤智哉委員） 連携をもう少し深めてもらって、二度手間になってしまっ

たので、1回で終わるようにしてもらえたらと思っています。

事務局（久保主査） はい、承知しました。

議長（齋藤義治委員）　お願いいたします。

そのほかには、何かございますか。

議長（齋藤義治委員） それでは、ないようでございますので、採決をいたします。

議案第４４号、番号１から番号３について、承認することに御異議はございませんか。

「異議なし」の声多数

議長（齋藤義治委員） それでは、議案第４４号、番号１から番号３について、承認をすることに決定いたします。

次に移ります。

日程第 8、報告第 19 号「藤沢市農業委員会規程第 9 条第 2 項に基づく報告について」を上程いたします。

事務局の説明を求めます。

久保主査。

事務局（久保主査） 本件につきましては、まず 1 2 ページから 1 3 ページが「農地
法第 3 条の 3 第 1 項の規定による届出」でございます。

御所見・遠藤地区が4件となっております。

続きまして、14ページから16ページまでが「農地法第4条第1項第7号の規定による転用届出」でございます。

六会・長後地区が2件、藤鵠・村岡・明治地区が6件、合計8件となっております。

続きまして、17ページから20ページまでが、「農地法第5条第1項第6号の規定による転用届出」でございます。

御所見・遠藤地区が1件、六会・長後地区が2件、藤鵠・村岡・明治地区が10件、合計13件となっております。

以上で説明を終わります。

議長（齋藤義治委員） 本件につきましては、報告事項でございますので、お目通しの上、御質問等がございましたら、お願いをいたします。

全体を通してでも結構でございます。――全体を通してですが、今回も、農地法の第5条、第4条の転用の申請がかなり出ております。

農業者の減少ということで、これからもどんどん農業者が減るということですが、藤沢市内で農家という、今大体600戸ぐらいしかないらしいんですね。ですから、それが2040年頃になると、多分150戸ぐらいになるのではないかと予想されていますので、転用が、これからもますます多くなりますが、転用のときに、転用の理由というか、そのほとんどが、その家の後継者がいないとか、高齢化によってやめていくという理由がほとんどですが、担い手がどんどん減っていくということは、これは、この毎月の転用を見ていると、藤沢市内でも非常に多くなっております。

藤沢市の人口は、約43万人ですから、そのうちの500戸ぐらいしか農家がないわけです。そうすると、この先、5年、10年後には、今「地域計画」でも10年後のいろいろ計画をしていますが、なかなか難しい問題が出てくるのではないかなということは感じております。

その辺も、ぜひとも地域の皆様方に、今回もかなり大きなハウスが自動車置場ということになりますので、そういうところが、もし後継者がおられれば、後継者にぜひともやっていただきたいなと思っておりますので、その辺も農業委員としていろいろあっせんですとか、そういうこともお願いをしたいなと思っております。よろしく願いいたします。

そのほかに、何かございませんか。

井出委員。

16番（井出茂康委員） 全然関係ないかもしれませんが、先ほどもお話ししましたが、これから、大企業からの「農福連携」で、農地を借りて、それをやるということは、農業として認めていくべきというか、認めていくものなのかどうか、実際に来ていることは来ているんですね。

そういう話もあるので、そこら辺がどうなのかなという感じで、農業委員会的にというか、皆様のお考え的にというか、こういう場で決めるべきことなのかどうか、法律の問題もいろいろあると思うので、難しいのは非常に分かるのですが、どうなのでしょうかねと思ひまして。

議長（齋藤義治委員） 確かに「農福連携」というと、農業者から見ると、果たしてそれがどういうものなのか、要するに農業ではなくて福祉を中心に物事が進んでいるというふうなこともありますから、その辺は、果たしてそれが農業かなということは、井出委員が言われるようなことだと思います。

16番（井出茂康委員） 今、実質いろいろな県で入っていることは入っているんです。やっていらっしゃるのはやっていらっしゃるみたいですが、いろいろな市町でもやっていまして、ただ、大半が、こういう建物の中で、要は植物工場的な形の中で話が進んでいて、農地ではないんですね。でも、野菜をつくっている、花をつくっているのだから「農福連携」ですというような形でやっているのが大半らしいんです。

まあ一部というか、千葉とか茨城のほうでも、農地でやっているところの許可が下りてやっているらしいのですが、そういうようなところは、農地ではなくって、全部一回雑種地に戻して、要は農業をやるのではないのかという形で雑種地にするらしいんです。そうでないと、建物の許可が下りないらしいんですね。そちらのほうでも、ハウスを建てたり、管理棟を建てたりというようなことを、農家ではない者がするので、という言い訳ですが、そこら辺もどうなのかなと。

今お話が来ている中で、農地ではないものに、雑種地にしちゃいますよと。

農地を雑種地にするということは、転用じゃないですか。何でもない、つながっている私たちの土地の第1種農地を、それが、許可が下りますとってきいているんですね。

議長（齋藤義治委員） 下りるのかな。

16番（井出茂康委員） 今までの前例からいくと、全部下りているんで、ここも問題なく下りるはずですよというニュアンスで来るわけですよ。——まあそうでしょうね、ほかのところの工場とか、ただ、白地で考えているらしいので、白地だから許可が下りて、農振農用地なんか青地だから許可が下りないというような話になってしまうと、じゃみんな白地って、そうになっていくんじゃないのとか、山がみんなそうになってしまうんじゃないのというような考え方的にもとれるので、確かに農業委員会の中では山林とか、そういう部分に対してのクレームというのはつけられないですし、文句も言えないのですが、そこら辺、考え方的にどうなのかなとかというふうに思ったりもするので、結構な額を出すと言いますからね。

議長（齋藤義治委員） 多分これからも、この「農福連携」だとか、外部からのいろいろな話があるかと思いますが、農業委員として、問題点を共有したいと思いますので、ぜひともよろしくお願いいたします。

そういう情報がございましたら、こういう席あるいはいろいろな席で発表していただくのが一番いいかなと思いますので、今後、ひとつよろしくお願いいたします。

何かほかにはございませんか。

吉原委員。

13番（吉原 豊委員） 今の話ではないのですが、今日も朝からテレビでやっていたのですが、大臣が、要は大規模なところは大規模でと、今までもずっと続けている、中間のところは、神奈川県なんていうのは中間ですよ。こういうところも、やはり大規模にしていくためには、どうしたらいいかということを考えなければいけないと。

まあ大臣のほうは、それは考えるにしても、市町村でよく考えていかなけれ

ばいけないんじゃないかなと思うんです。

今、一生懸命「地域計画」というのを言っていますが、もっと具体的に、例えば藤沢市なら藤沢市の農地をこういうふうにしていきたいんだというのを、農水産課のほうで、その指標をつくって話をしていってほしいんですね。

そうしなかったら、農家はどっちへ行ったらいいのか、ますます分からなくなってしまったのが、僕は現状ではないかなと思うんです。

それから、今現在も、つくっていないところはどんどん増えていますよね。そういうところが放棄地になっていくので、併せて農水産課へ言っていただければありがたいなと思うんですがね。いかがなものでしょうかね。

議長（齋藤義治委員） その辺は、農水省なんかも、要するに大型にして大規模農業をやる、あるいはそのほかに小中の農家をどうするかということが、非常に問題になっているらしいんです。それでも、結論はなかなか出ないですね。

だけれども、その中で、農業者に対しては、「地域計画」というのが最近できまして、その地域計画の中で、地域の中で、要するに若い人と高齢者の人が、その中で話し合っていて、この地区をどういうふうにするかということを、ぜひとも検討していただきたいということは、地域にそのことは言っています。

国でも、中山間地ですとか小規模農業をどうするかということは、今後の大きな課題みたいなので、何かの結論は出てくると思いますので、その辺は、ぜひとも関心を持っていただきたいなと思っています。

そのほかに、何かございますか。

— — — — —
— — — — —

議長（齋藤義治委員） ないようでございますので、本日予定しておりました議事については、全て終了いたしました。

それでは、以上をもちまして10月の総会を閉会といたします。

大変長時間にわたり御審議をいただきまして、まことにありがとうございました。

どうもありがとうございました。

閉会 午後 3 時 4 2 分

以上のとおり相違ありません。

議 長 齋 藤 義 治

署名委員 (番)

署名委員 (番)